

平成20年度 工芸科学部 学位記授与式
学長告辞

本日、ここに学士の称号を得て卒業を迎えられた皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心からお祝いを申し上げます。また、この日に至るまで長い間にわたって皆さんの勉学を支えてこられたご家族および関係者の方々のご労苦に対して深い敬意を表します。

皆さんは、本学の教育課程で研鑽を積まれ、輝かしい成果を挙げ、本日目出度く卒業式を迎えられました。本日は、皆さんが過ごしてきた大学生活を振り返る日であります。専門について深く学び、友人、先輩、後輩との思い出深い時を過ごし、そして、多くの先生から指導を受けたことなど、本学での学生生活をじっくり振り返り、吟味するのは、今日をおいて他にはありません。また、皆さんは、ご家族をはじめ多くの人々のご支援によって今日を迎えることが出来たことと思います。今日は、そのご恩を振り返り、感謝する日でもあります。

皆さんは、明日から本学で学んだ知識と経験を糧に新しい世界へ船出されることになります。そして、企業での仕事、あるいはもの作り、また大学院での研究など様々な仕事に従事され、社会的自己実現を果たされることになります。小学校から大学までの教育は、実は、この社会的自己実現に向けての準備であったのです。この意味で、大学の卒業は皆さんの人生の中でも大きな節目となる出来事であります。

皆さんを待ち受ける現在の社会は、大変厳しい状況にあります。米国のサブプライム問題に端を発した世界的経済不況を始め、環境破壊、地球温暖化、宗教的対立、貧富の格差、少子高齢化、年金問題、生命を脅かすような食品偽装問題、ワーキングプアなど課題山積の社会の中で、多くの人が漠然とした不安の中で日々の活動を行っています。このような社会に船出される皆さんは、今まで経験したことがないような困難に遭遇されることになると思います。そして、このような厳しい時代を生き抜く力が試されることとなります。困難な課題に遭遇したときどのように身を処するか、激しく変化する社会の中でどのように生きてゆくかは重大な問題であります。特に若い人にとっては、重大です。そこで、今日は、このことについて皆さんに一言申し上げたいと思います。

それは、人と人がつながりを深め、協力して働くことの意義についてであります。世界的経済不況の中で職場を追われ住居も失って、行き場をなくした人たちの報道がしばしばされていますが、これを見た多くの人々は、現代社会の厳しさを実感し、貧困という言葉を身近なものとして感じ、明日はわが身かと不安を感じています。社会の存亡にかかわるこのような課題が起こったのは、今までの社会のあり方、人々の生

き方に原因があるのではないかと思います。

これまでの社会は、どちらかと言えば、「一人で生き、勝ち、独占する」力の開発に専心してきた社会といえます。このような社会では、人間社会の発展の原動力となっていた「人と人が協力するときの人間の力」を見失うことになり、その結果として、格差が起こり貧困が増大します。

スペインの哲学者 Ortega (Ortega y Gasset, 1883-1955) は、約 80 年前 (1929 年) に「大衆の反逆」という著書の中で、格差が起こる蓋然性を予測しています。科学技術の進展は人間の生存可能性の飛躍的な増大をもたらすが、他方で、多くの人が一切の価値を喪失し、自らが生きることへの決断をすることが出来ない状態に陥ると予見しています。Ortega によれば、豊かな社会における格差と貧困の増大は、「大衆人」と「選ばれた少数者」の分断によって起こるとされています。自分自身に価値を認めようとせず、自分はすべての他の人と同じであると感じ、そのことに喜びを見出す「大衆人」と、他の人々以上に自分自身に対して多くの高度な要求を課す「選ばれた少数者」との分断です。

我々が今直面している、世界的経済不況、環境破壊、地球温暖化、宗教的対立、貧富の格差、少子高齢化、年金問題、生命を脅かすような食品偽装問題、ワーキングプアなどは、残念ながら、まさに Ortega が 80 年前に予見した社会に顕れてくる現象に思えます。これらの困難な課題を克服するためには、大衆人と選ばれた少数者の分断を修復し、人と人とのつながりを深め、協力して働くことの意義を見直し、人と人が協力する力を強めることが不可欠だと思います。

いま、滝田洋二郎監督、本木雅弘主演の映画「おくりびと」が話題になっていますが、皆さんは、この映画が第 81 回米国アカデミー賞で外国語映画賞を受賞したことは、ご存じだと思います。私は、この受賞の背景には、現代社会の閉塞感、行き詰まり感の認識があると思います。我々が遭遇している様々な困難が、これまでの社会が、「人と人が協力するときの人間の力」を見失い、過度に「一人で生き、勝ち、独占する」力の開発に専心してきたことに原因があると、多くの人気が気づいたことが背景にあると思います。人と人とのつながりを深めることの意義と重要性が、改めて認識されたのだと思います。

人々にとって最も身近で普遍的な「協力、協働の場」は、家族であり、友人であり、職場であります。協力、協働の場では、人々は自分に応じた役割を分担し、互いを補い合い、様々な問題を協力して解決し、協働の喜びを分かち合うのです。しかし、近年、個人個人の物質的豊かさを追求した結果、家族においても団欒の場が失われ、一人で食事をする個食が増え、家族がばらばらに時間を過ごすことが普通になってしまいました。そして、家族崩壊が起こっていると言われて。

映画「おくりびと」では、人は誰でもいつかは、「おくりびと」になり、やがて「おくれびと」となるという、万人に平等に訪れる死を扱っています。すべての人々に平等で普遍的な「死」というテーマを通して、家族の愛、肉親への想い、友情、そして仕事への矜持、誇りを描いています。「おくりびと」では、納棺の儀式という、日本人の繊細な「もてなし」と「しきたり」を描き出すことを通して、人と人とのつながりがもつ深い意味をシンプルなメッセージとして伝え、世界の人々の心を動かししました。

人々は、有史以来ずっと幾多の困難に遭遇してきましたが、家族や友人そして仕事仲間同士が協力することによって、この困難を乗り越えてきました。人は、協力、協働することによって、困難を克服し偉大な事業をなすことができるのです。このことは、プロジェクトXというNHKの番組で、さまざまな形で紹介されましたので、多くの方がご存知だと思います。

皆さんが今日の卒業式を迎えることが出来た背景にも、ご家族をはじめ多くの人々のご支援、ご協力があつたと思います。皆さんには、人と人がつながりを深め、協力して働くことの意義と重要性について、今一度、深く考えていただくことを希望します。

皆さんは、明日から新たな世界で活躍されることとなりますが、皆さん一人一人が、今まで培ってきた能力のさらなる向上と創造性の涵養に努められ、そして良き仲間めぐり合い、協力、協働の力によって、新しい希望に満ちた社会の実現のために貢献されることを願って、私のお祝いの言葉と致します。

本日は、学士の取得、まことにおめでとうございます。

平成21年3月25日
京都工芸繊維大学長
江島 義道